

牛の脊柱をゼラチンや牛エキスの原材料として利用するためには、と畜場において背根神経節が完全に脊柱から分離されなければならないが、現在までのところ、除去率はその状況には達していない。今後、さらなる除去技術の改良が必要である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

2010年3月 25検体

C1~L3:

最小 74%

最大 99%

平均 91%

標準偏差 6%

2010年4月 20検体

C1~L3:

最小 81%

最大 100%

平均 92%

標準偏差 5%

2010年5月 16検体

C1~L3:

最小 86%

最大 100%

平均 93%

標準偏差 5%

2010年6月 21検体

C1~L3:

最小 78%

最大 100%

平均 91%

標準偏差 5%

2010年7月 21検体

C1~L3:

最小 81%

最大 100%

平均 92%

標準偏差 6%

2010年8月 18検体

C1~L3:

最小 83%

最大 97%

平均 90%

標準偏差 4%

2010年9月 18検体

C1~L3:

最小 65%

最大 100%

平均 90%

標準偏差 8%

2010年10月 23検体

C1~L3:

最小 79%

最大 99%

平均 92%

標準偏差 5%

2010年11月 18検体

C1~L3:

最小 83%

最大 100%

平均 93%

標準偏差 5%

2010年12月 15 検体

C1~L3 :

最小 85%

最大 99%

平均 93%

標準偏差 4%

2011年1月 21 検体

C1~L3 :

最小 77%

最大 100%

平均 93%

標準偏差 6%

2010年3月~2011年2月

238 検体

C1~L3 :

最小 65%

最大 100%

平均 92%

2011年2月 22 検体

C1~L3 :

最小 82%

最大 100%

平均 93%

標準偏差 6%

図1 背根神経節の月別除去率
(2010年3月～2011年2月)

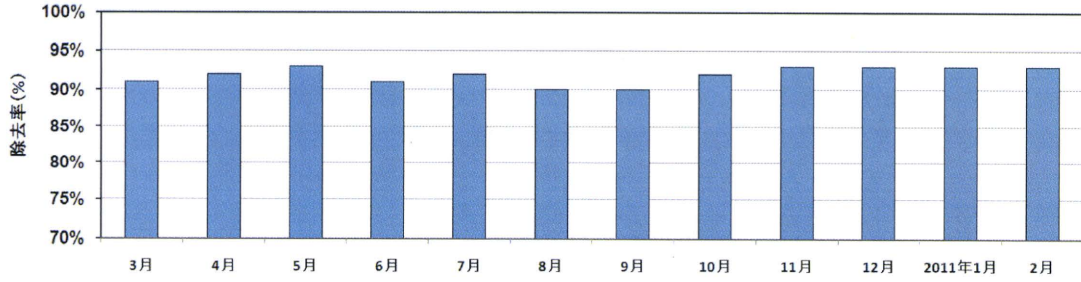


図2 背根神経節の部位除去率
(2010年3月～2011年2月)

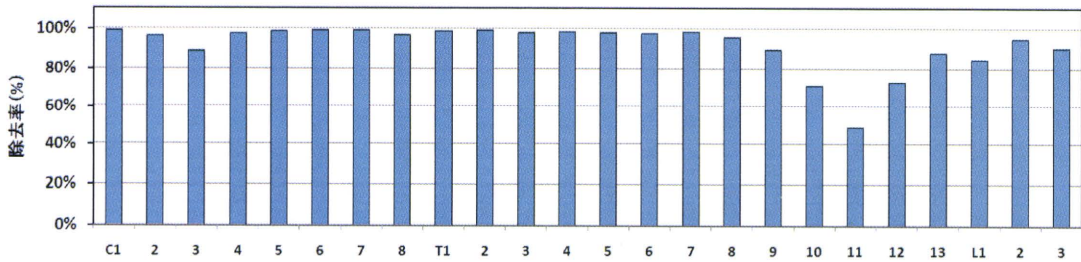


図3 牛品種別の背根神経節除去率の推移
(2010年3月～2011年2月)

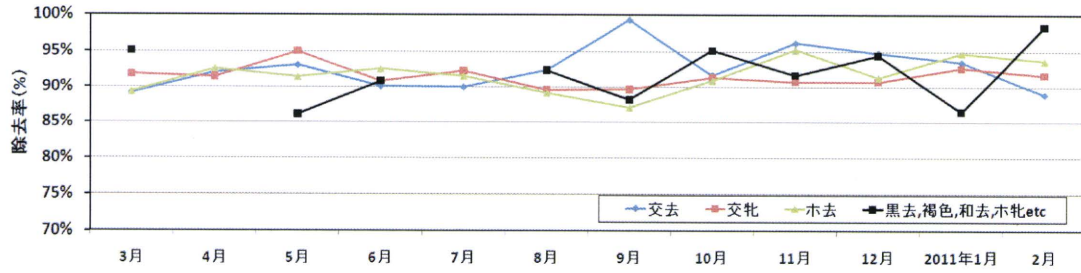
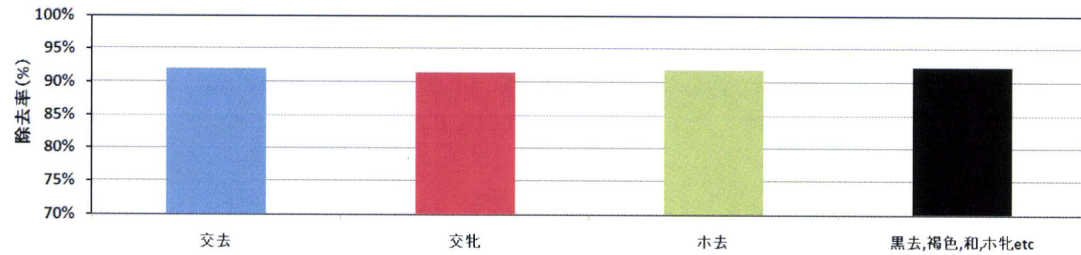


図4 牛品種別の背根神経節除去率
(2010年3月～2011年2月)



研究成果の刊行に関する一覧表レイアウト

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
該当なし							

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
該当なし					

